

保健師 最前線

その場、その場が

大事です



伊根町

なかがわ ようこ
中川 陽子さん



「外へ働きに出ている若い人を除けば、町のほとんどの人がどこの誰かは分かります」。保健師になって24年になる。町保健福祉課の健康増進係長である。「町職員の中にも私が新生児訪問をさせてもらった人もいます」と照れくさそうに話す。物腰が実にやわらかい。

町の保健師は3人。このうち中川さんともう一人が健康増進係に所属する。各種補助金の申請・実績報告から特定健診、がん検診、歯科健診などの総合健診、健康相談、健康教育、予防接種と、担当する業務は広範囲に及ぶ。「どれに力をいれているのですか」との当方の質問に「どれも頑張らなあかんので…」と笑って答えられてしまった。

特定健診の受診率は54・5%（平成27年度）と府内では上位を占めている。特定保健指導の実施率も府内平均よりも高い。「でも、特定健診の受診率はここ数年伸び悩み、その壁をなんとか乗り越えたいんです」。特定健診の問診で約6割の人が「運動不足」と答えているのが気になるという。「仕事で体は動かしてはいるんですが、運動（健康）のための運動ができていない。高齢者を含め外出手段を車に頼らざるをえないということもあります」

仕事を持つ若い世代も意識し平成27年度からヨガとエアロビクスの夜間運動教室を開

いている。いずれの教室も好評だが、参加者は女性ばかりだという。「男性のための運動の機会をどう作っていくか、今後の検討課題です」と運動習慣をつける方法を模索中だ。

つい最近、特定保健指導をずっと拒んでいた60代の男性が初回面接を受けてくれた。数週間後、「その後の体重と血圧を測ってほしい」と中川さんを訪ねて来た。「次の面接も来てくださいね」と言うと「来るで」と言ってくれたという。「うれしかったです。それにしても何が彼をそうさせたのか。心の内を知りたいです」。保健師としての喜びと悩みが交錯する。特定保健指導などを通してこのころ思う。

「その人が求めてきてくれた時に、どれだけ全力で向き合えるかが問われているように思えます。その場、その場が大事なんだと痛感します」。「今度、男性になんで来てくれたのか、それとなく聞いてみようかと思っています。それと男の人が参加してもらえる方法や教室についての意見も聞いてみようかな」。いたずらっぽく笑った。

二男二女のお母さんでもある。一番下の次男が所属する少年野球の世話係もやっている。ボール投げの相手もする。「自分の時間はほとんどありません。よく食べて、よく寝る。バタンキューです」。お疲れさまです。